

令和2年度PTA実施アンケートにていただきました園へのご意見や質問事項について、PTAより回答書の作成を依頼されましたので以下の通りご連絡申し上げます。

①保育内容について

(1) **クッキングが楽しかったので、今後も実施継続して下さい。**

ありがとうございます。年間カリキュラム、食育計画等に基づき継続してまいります。お忙しいとは思いますが、ご家庭でもぜひ取り組んでください。

(2) **保育内容が分からない。自由保育ですか？カレンダーの活用はできないのか。**

平成30年4月に施行された新しい認定こども園教育・保育要領に基づいた保育を行っています。保育のねらい・意図・こどもの様子についてはブログで詳しく発信しておりますのでご覧ください。本年度からは保育内容やお子様の園での様子をさらに詳しくお伝えするために連絡帳への写真添付や、プロカメラマンによる日常保育風景撮影・販売も開始いたしました。プロカメラマンが撮影した高品質な写真が思い出の記録にもなります。園内行事についてはコドモンカレンダーやメール連絡でお知らせいたします。年齢ごとの1日の流れはホームページ上に公開予定です。本文書の最後に参考図書をまとめました。新しい要領や保育・教育内容について理解を深めるためにご一読ください。園の書籍も貸出いたします。

(3) **先生方の決めた決まり事を子供が意識しすぎて、子供自身が、納得がいくまでできているか疑問です。**

次の質問にも関連しますが、「大人の規則の中でがんじがらめ」「こどもがやりたいほうだい」はどちらも望ましい保育の状況ではありません。こどもの力を伸ばす・成長を後押しするためにはある程度の枠組みを持ちながらもこどもが創意工夫することができるゆとりが必要です。保育者は個人・そしてクラス単位の集団の様子を丁寧に把握し分析したうえで保育活動を組み立てています。園生活では個々のこどもの最善の利益のみならず、「こども達」の最善の利益を第1に考える必要があります。気になる状況がありましたら担任へご相談ください。

(4) **興味がある事をさせる環境はとても良いが、やりたくない事への取り組みはどうしていますか。**

発達段階やクラス園児の興味関心、遊びの広がり进行分析した上で、こどもの『やりたい!』を中心に保育活動を計画していますが、『やりたいことだけやってやりたくないことはやらない』わけではありません。全員での話し合い活動やリトミック等の際にやりたくないからと言って一人だけ外遊びをする事はありません。

『今は何をやる時間か?』を年齢に合わせて伝えたり話し合っています。大人の都合で『待たせる』のではなく、『待つ』活動を意識的に取り入れたり、友達と折り合いをつけたり協力する場面を作り出す工夫をしています。

普段の保育の活動でも苦手な気持ちがあったり、たまたま気がのらずに『やりたくない』という

事があった場合は、その気持ちを尊重しつつ様子を見ながら途中から活動に参加したり、少し挑戦してみようかな？と思うような声掛けをしたりという工夫をしています。『今日はこの活動をするんだから、やりたくないと言わずにやりなさい！』というような声掛けは絶対にありません。子供の様子を見極め、どうしたら無理なく活動に参加する事が出来るか？を考えています。

主体性を大切にすることとは子供のやりたい放題ではありません。『今日はこの活動をします』『この作品を作ります』と大人が決めた活動だけを行うのではなく、皆で同じ活動に取り組む際にも子供の興味関心を中心に据えて保育活動を計画しています。

(5) 外遊びの際は、ケガしないように、靴を履くようになっているか？

基本的には靴をはきます。気候や活動、発達段階、年齢（特に0-1歳児の砂場遊びで存分に足裏からの感覚刺激を楽しむ場合）活動内容に応じて、裸足で活動することがあります。

(6) (意見)雨の日のゲームなどの配慮が充実しています。

ありがとうございます。室内でも活動がマンネリ化しないように保育実技の園内研修を通じて学んでおります。

(7) 給食時のいただきますがバラバラであるが、小学校前に大丈夫であるか？

連絡会などで就学先の小学校と協議する際に、本園卒園児が給食を待てないとの話を聞いたことはありません。小さいうちは「空腹を感じる→ご飯を食べる→体も気持ちも満たされる」という感覚やリズムを体得することが大切だと考えています。小学校とは異なり、こどもの登園時間にも幅があります。朝ご飯を6時半ごろに食べ7時に登園するこどもと、朝ご飯を8時半ごろに食べ9時頃登園するこどもでは、おなががすくタイミングも違います。「ご飯の時間だから」と食べることを過度に促すと給食の時間を苦痛に感じるこどももいます。しだいに年中ぐらいになると「今日はこのお友達と食べたい。」という気持ちが芽生え、同じテーブルの友達の配膳が終わるまで待ちテーブルごとに一緒に「いただきます」の挨拶をする姿も見られるようになります。このような経験を積み、年長の1月から就学を意識して「小学校とおなじ給食時間で食べ終わる」「全員でいただきますをする」といった取り組みを行うとこども達も無理なくなじんでいます。卒園までに育てたい力や生活習慣を見据え、長い時間をかけ無理なくその準備を行っていますのでご安心ください。食への取り組みについては以下のブログもご参照ください。

https://tonohara.org/article_9993.html

https://yoshii.ed.jp/article_15268.html https://yoshii.ed.jp/article_13434.html

(8) ウェブカメラの設置希望(ブログが減り、子供の行動パターンが分からない為)

現在は防犯と状況確認のため園庭3か所にカメラを設置しています。保育中に事故等が起こった場合の状況確認のためまじゅまろはうす保育室内のカメラ設置は準備中です。しかし、保護者の皆様の「自分のこどもが今この瞬間に何をしているか見てみたい」という興味に応える目的で保育室内の様子を常時インターネット配信するウェブカメラを設置する予定は今後ありません。お子様の園での様子をご覧になりたい場合には、保育参観日や先生体験の機会だけでなく、園に

事前に連絡ご連絡をいただいた上で日常の様子をご覧いただいても全くかまいません。

(9) 絵本の貸し出しについて(忘れる事に対して執着し、本へのふれあいから遠ざかっている)

本の返却を忘れても、借りられるような配慮を致しております。園でも本の取り扱いについて折をみてお子様に話をしております。ご家庭でもぜひ、借りた本の取り扱いを今一度ご確認ください。絵本は他のお友達も読むので、破かない・踏まないという約束をこどもたちとしています。18番のご質問にあります規律性との関連性もありますのでご協力よろしく申し上げます。

(10) 文字に対する取り組み(手紙交換は交流も兼ねて継続してほしい)

小学校との連絡会で「誤った文字の理解に繋がることがあるので年長時に50音表を書き写すなどの練習はしなくてよいが、就学時に「自分の名前がひらがなで読めるように準備をお願いします」との依頼がありました。本年度からは小学校との接続カリキュラム(アプローチカリキュラム)の一環として年長児対象の硬筆教室を行い、文字への興味を高めています。

(https://yoshii.ed.jp/article_15293.html) 文字を書くことの基礎となる、「文字そのもの」や「読む」ことへの興味は絵本の読み聞かせ、かるた遊び、サークルタイムの意見をホワイトボードに書き出すなどを通じて日々取り組んでおります。全学年に配布した本園のアプローチカリキュラム(年長は紙媒体でも配布)には就学に向けてご家庭で取り組んでいただきたいことがまとめてありますのでご参照ください。

手紙交換につきまして、4-5歳児のお子様の発達の特徴として、言葉とその意味がしっかり理解できていない場合があります。文字が書けるようになったことがうれしくて「お友達にお手紙書いたの」と見せてくれた内容が例えば「しね」「○○ちゃん、だいきらい」といった、意図せずして相手を不快にさせる内容のことも少なくはありません。保育者が見守る活動の中でゆうびんやさんごっこをしたり手紙を書いたりという活動をすることはありますが、ご家庭から持ってきた物を園で交換(手紙に限らずプレゼントやティッシュ等)することはご遠慮ください。

(11) 母の日などイベントを、家族への感謝の理解に繋げてほしい

母の日、敬老の日に絵本を読み聞かせたり「今日はどんな日?」と話し合い活動をしたりしています。様々な家庭背景のこどもがこれまでも在園している/していたので(例:母子家庭、父子家庭、養子縁組家庭、離婚調停中、望まない妊娠など)、クラスごとに配慮をしながら活動に取り組みます。

個々と集団それぞれに配慮しながら園で行う「母の日」「敬老の日」などの取り組みが物足りない、なにか必ずプレゼントを作らせてほしいとお考えになる場合には、ご家庭でご家族に感謝する気持ちをさらに深められるような工夫をなさってください。

(12) 整列が出来なかったり、舞台上での恥ずかしい動作が目立つ

ご質問の背景をお尋ねしたところ、フェスタの舞台発表の際に舞台の真ん中ではなく端の方で恥ずかしそうにしていた園児の姿をご覧になって「もっと指導・訓練をすればできるようになると思

うが、指導が足りないのではないかとご感想をいただきました。練習では楽しく笑顔で踊っていても、いざ本番となりリズム室を所狭しと埋める保護者の皆様の前に立った瞬間に足がすくんでしまう、恥ずかしくなってしまう、そんなこどもの気持ちや姿も成長の過程です。フェスタは、こども達なりの表現を楽しむことや、年齢に応じた表現をご覧いただくことを目的としています。私共は、フェスタをおとなが決めた表現をさせる場や、大人が考える表現の完成度をこどもに求めるための機会とはとらえておりません。運動会やフェスタの際には「泣くまで指導してほしい」「みんなと同じことができるようになるように特訓してほしい」そんなご要望をいただくこともありますが、私たちはこどもが楽しみながら取り組むこと、お子様が園生活や表現することを嫌いにならないこと、自分なりの表現を大切にすることを重視しています。いわゆる特訓・訓練はしませんが、かといって「いやならやらなくていい」という姿勢を取るわけでもありません。「本番で、ここ一番の我が子の姿が見たい」という親心もよく理解しておりますが、本番に至るまでの過程も同じくらい大切にしてくださるとうれしいです。また、私たちもその過程がより皆様に伝わるように、動画配信やブログ発信を工夫いたします。

(13) 給食が栄養もあり、とても美しく感動しています。もっと、料理の説明や、紹介を増やしても良いのではないかと？

おほめいただきありがとうございます。栄養士を中心にブログ発信を続けていきます。コドモンアプリからその他>献立表>その日の写真マークをクリックすると毎日の給食写真をご覧いただけます。本年度は1回開催した本園栄養士による「錦ヶ丘の食」育児講座を来年度は複数回実施予定です。

またCOOKPAD内に「にしきキッチン」(<https://cookpad.com/kitchen/14879254>)でレシピを公開しております。順次レシピを増やしていきますのでご活用ください。

(14) 縄跳び、鉄棒、マット運動、鍵盤ハーモニカへの取り組みはあるのか？(就学前に不安)

体を動かす活動、健康な体のための活動は保育活動で十分に行っております。のはら園を駆け巡る、リトミックで体幹を遊びながら鍛える活動を行う等が具体例として挙げられます。本年度の運動会時にお子様の体力に驚いた保護者の方も多いのではないでしょうか。縄跳び・マット運動も遊びの中で取り入れています。一斉に縄跳びを教えたり体操教室のような活動を行ったりすることはありません。鉄棒やマット運動は小学校の指導要領の中で定められており、授業で行われる内容です。こども園は小学校就学のための予備校ではありません。こどもの心身の発達を大切に、学びに向かう力の基礎を培うことが幼児教育のかなめであり、小学校教育との接続や連続性を考えて取り生んでおります。

(15) お昼寝はいつまでですか？

年長組は、年内いっぱい予定です。1月からは、進級を見据えてお昼寝をなくします。ただし、体調や全体的な様子を見ながら体を休める期間を設ける場合があります。

体を休めるに必要な昼寝の長さには個人差があります。早く目が覚めた場合、眠たくない場合には無理には、昼寝はさせず、同じ部屋で他のお友達を起こさないように絵本を読んだり静かに遊んで待つ事があります。

(16) (意見)先生方の笑顔で親切な対応に感謝です

ありがとうございます。保護者の皆様からのあたたかいご意見がとても励みになります。これからも保護者の皆様と共にお子様の成長を喜び成長していきたいと思っております。

(17) 説明や変わった事への案内が行われていない

お知らせや説明が不十分で申し訳ありませんでした。今後も、重要事項説明書やお知らせ配信を活用し詳しいご説明に努めます。

(18) 規律性はどのような場面、活動で養われていますか？

くり返しになりますが、園生活は集団生活です。規律性＝ルールを守らなければいけない場面はたくさんあります。自分の荷物を自分の場所に置くこと、保育室に帰ってきたら手洗い・うがいをすること、使ったおもちゃはみんなで片付けること、わらべうた活動で自分の順番を待つこと、時計の針が○になったら△する、などなど、年齢により異なりますがどの学年でも園生活のきまりはあります。「わかっていてもできない、したくない」ことがあるのが幼児期です。これらのきまりが守れないことがあったからと言って保育者があたまごなしにこどもを叱ることはありません。年齢や発達段階に応じて声掛けを工夫し、やがて大人の声掛けが無くてもこどもたち自身が「なんのための決まりなのか」を理解し、その決まりを守ることが出来るように働きかけています。

例えば年中～年長のこどもに人気の「しっぽとりゲーム」(帽子をしっぽに見立てた鬼ごっこ)も、3歳ではまだ遊びが成立しません。追いかけられる人、追いかける人、しっぽを取られたら負け、という「遊びのきまり」を理解することがまだ難しい年齢だからです。ルールを守ることの大切さを大人が教え込むのではなく、年齢や発達段階を踏まえた対応をすることが大切です。

就学までに育ててほしい10の姿にも「道徳性・規範性の芽生え」という項目があります。ご家庭内でも様々なルールがあると思います。ご家庭の取り組みとの相乗効果で規範性の芽生えを後押ししてまいりたいと思います。

(19) お泊り保育がないが、皆で遊びこむ日なども夕方ではなく、夜の21時までなど行ってほしい夜の21時まで園で保育する日を作ってほしいとのご要望ですが、その時間まで活動することでしか得られない保育の目標があるとは考えにくいです。行事については今後も意図・ねらい・目標、その行事がこどもの成長にどのようなプラスの影響があるかを総合的に考えながら計画してまいります。保育時間外であれば園庭を貸し出すことも可能です。保護者同士誘い合っでのBBQ、グランピング、凧揚げ大会など楽しいイベントの会場としてご活用ください。

(20) 会場を借りて、音楽発表会の開催があればいいです

表現活動の発表の場としてフェスタを実施しております。日々の保育の中でこども自身が取り組んできた活動を舞台や展示を通して発表しております。別会場で大勢の方に観覧していただく音楽に特化した発表会を実施する予定はありません。

(21)朝の支度関係は、保護者が園内に入る事はリスクなのでは？

入室の際にはご家庭での検温・手洗いうがいや入室時の手指消毒徹底へご協力ください。登園・降園の準備は不特定多数の方が行うものではなく、入室者の把握も可能です。室内の、消毒、加湿、換気も徹底しておりますので今後も各ご家庭でご協力ください。

(22)ましゅまろハウスからの逆行性感染リスクは？

0-1歳児に感染症り患児が多い際には別の保育室で早朝・延長保育を行うなどの工夫をしております。しかしながら、0-1歳児のきょうだい児が3-5歳児に在園していること、また職員もクラスを移動することがあることや、園生活は集団生活であることから感染リスクを減らす努力はいたしますがゼロにはなりません。

(23)皆で活動する事がありますか？皆で取り組む事も含めて。

もちろん、あります。時間の長短はありますが、0歳児から5歳児までどの学年もクラス全員で取り組む活動をしています。朝の会・サークルタイム、わらべうた、リトミック、積み木遊び、絵具遊びなどクラス全員で取り組んでいます。

(24)(意見)外遊び以外で、興味を揺さぶるような遊びを、ブロック以外にないような印象。なので、取り入れてほしいです(つくし組)

ブログでもご紹介しておりますように、泡遊び、絵具遊び、自然物遊び、リトミック等室内活動も充実しております。室内の玩具はこどもの成長や興味を見極めながら随時入替しております。

つくし組の活動はこちらもご一読ください。

https://yoshii.ed.jp/article_12938.html

https://yoshii.ed.jp/article_12098.html

② 事務システムに関して

(1) (意見)アンケートや連絡の見落としが減りました。

システム導入が皆様のお役に立てているようでうれしいです。今後もわかりやすい発信を心がけて参ります。

(2) 兄弟の一括入力ができたらいい

システムの現状ではきょうだい児の一括入力が難しいです。コドモンに機能改善の要望を提出いたしました。

(3) 年少々の子供の一号申請(9月)の際に、年長の子供の新2号の申請の手続きは可能ですか？

年少の1号認定の時に『年少』の新2号認定申請を行う事は可能です。『年長』の申請は、数年先の事なので難しいかと思えます。年少々クラス未認定児には誕生月に認定申請に必要な書類をお渡ししております。尚、新2号認定については市役所が行いますので、新2号になれるかどうかの判断は園ではできません。

(4) コドモンで取り消した分も残りますか？

一度送信後保護者が取り消した連絡についても園で履歴を確認する事はできます。

(5) 預かりの一括入力がありますか？

まとめて時間を変更・申請する方法を7月30日の園内連絡でご紹介しております。ご確認ください。又、園側でも『まとめて連絡機能を使った方が手間が省けるのではないか?』と思う方には、個別にお声掛けさせて頂いています。

(6) バス位置情報を詳しく知りたいです

現状のアプリでは今以上の対応は難しいようです。バス利用者の皆様のご協力を得ながら定時運行を目指しております。バス運行時刻表を目安にお待ちください。

(7) (意見)子供、親、先生を繋ぐアナログなツールがないのは残念です

デジタル化は時代の流れですが、アナログにはアナログなりの良さがあることは重々承知いたしております。電話やお手紙などでの連絡ももちろんお受けしております

(8) コドモン連絡内容は職員全員が把握されていますか？又、いつ確認されていますか？

該当日の連絡内容を、早出(7時)、7時50分、13時頃(可能な場合は)、17時頃、遅出(18時)の時間で当番・担任が確認しております。

当日の変更は、朝7時50分まで、以後は電話連絡をお願いしておりますが、アプリ連絡が多いです。13時は、給食の片付けやバスの準備が重なり、職員が多忙となりますので、確認できない事もあります。7時50分以降の変更(バス、降園時間、延長保育利用、等)は、お手数ですが電話連絡でご連絡下さい。また、1号・新2号の方の預かり保育利用予約は原則として利用日の

1週間前までです。コドモンでの予約にご協力下さい。

(9) 新2号の申請方法を詳しく知りたい(申請タイミングも含めて)

新2号は1号認定の変形認定です。新2号を受けるためには、就労や介護・看護などの事由を満たす必要があります。以下のページを確認し、新2号に該当する場合は、鹿児島市に新2号の申請書、保育を必要とする事由を証明する書類(就労証明書など)を提出して下さい。申請書が必要な場合は園事務室へお声掛け下さい。

<https://www.city.kagoshima.lg.jp/hoiku/documents/tetudukinituiteninnteikodomoenn.pdf>

(10) 終業式は午前中で終わりですか？給食はできますか？

通常の保育時間です。2学期の終業式は少し早めのクリスマス特別メニューでした。コドモンアプリ>その他>献立表から写真をご確認ください。

(11) カードでの入退出が出来る様になりませんか？

カードリーダーの設置は可能です。ただし、カードのシステムが違うため、裏門のセキュティーカードと連動させる事ができず、もう一枚カードをお持ちいただく事になります。

カードに園児情報を紐付ける必要があるため、カード利用希望の方は職員室でカード登録していただく必要があります。ご希望の方は事務職員へお知らせください。

(12) アンドロイドですが、再起動しないとみられないなど、不具合が多いです。 아이폰でも同様にあります。

お手数ですが、直接コドモンにお尋ねいただくと対応策があるかもしれません。アプリ内から、その他>アプリの設定>運営へのお問い合わせ をご確認ください。

(12) (意見)コドモン内に注意事項を分かりやすいように記入していただけると助かります

こういった注意事項の記載をご希望かがわかりませんでした。アプリの操作についてはコドモンホームページか、前項のアプリ機能をご利用ください。

(13) コドモンに届く内容が、メールにも来ないようにするには、どうしたらよいですか？

アプリ下記その他>アプリの設定>ご家族ごとの設定>お知らせ・登降園時間・連絡帳などの項目ごとに『アプリ通知のみ・メールのみ・通知なし・両方』のいずれかを設置して下さい。

(14) カレンダーに面談などを入力できますか？

保護者の皆様の予定を入力する事は出来ないようです。園児別の予定も作成する事は出来ません。

③その他

- (1) 年長のマークがなくなるのは理解できるが、靴箱に名前がなく、どこでも入れていい理由は？傘もどこにでもおいていいのですか？

年長児の靴箱が決まった場所でないのは、マークが無くても自分の靴を自分で管理できるようにするためです。年度当初から年長児が戸惑う姿もありませんでした。傘置き場はクラスごとに所定の場所がありますのでそちらをご利用ください。

- (2) 性教育についてどこまで介入しているのか？

プライベートゾーンについて保育中に話をしたり、年2回の防犯教室でも知らない人についていけないなどの「いかのおすし」（検索してください）を教えたりしています。職員向けの幼児の性教育研修会やLGBTの研修会も実施しています。一口に「性教育」と言ってもどの年齢でどこまで教えるべきかはご家庭での方針にも大きく差があります。職員が本年度研修を受けた「パンツの教室」では保護者向けの性教育研修をオンラインでも開催しています。研修では「性教育の基本は家庭から。保護者のかかわりが大切」と繰り返し教えていただきました。皆様もぜひ、受講なさってください。こちらのブログもどうぞ。https://yoshii.ed.jp/article_13495.html
https://muffin.tonohara.org/article_7818.html https://yoshii.ed.jp/article_14998.html

- (3) (意見)アンケート後に検討しますではなく、結果をしっかり示してほしいです。

保護者の皆様から園へ様々なご要望を頂戴します。1つのご要望にできるとその結果が他のご家庭にとって不都合となる場合もあります。そのため、個別のご要望すべてに対応することは出来かねますが、全体的な影響やバランスを見ながら対応し、ご相談やご要望についてもお応えするよう努めております。不十分な場合には再度ご指摘ください。

- (4) 上の子が卒園し、数年後に入園する場合は、優先枠はありますか？

恐れ入りますが、現在は卒園児の優先枠は考えておりません。

- (5) (意見)献立や便りを紙で欲しい方は、4月にアンケートをとり、毎月欲しい人をピックアップしてほしいです。

保護者の皆様の管理の利便性や、200家庭近くの紙のお知らせを折り・配布する業務を軽減するために今後も園からのお知らせは基本的にはコドモンを通じてデータで配信し、紙のお知らせを希望する方には個別対応をしたり、打刻タブレットそばに持ち帰り用の紙媒体のお知らせを用意したりしております。

紙ベースでおたより配信を希望の方は担任が把握してお配りしていると存じますが、今一度確認いたします。

- (6) (意見)コロナが落ち着いたらイベントを増やして欲しいです。(親の参加はどっちでも良い)他園

に比べると少ないと思います。

本年度は人数制限や期間をずらしての実施とはなりましたが保護者参加の行事として、入園式、参観週間、先生体験、誕生会、育児講座、運動会、フェスタを行いました。年度末には親子遠足・卒園式を計画しています。保護者の皆様にお子様の園での様子を見ていただくことや、園の方針について知っていただくために実施しております。

そのほか、園児を中心に行う活動として芋植え・稲刈り（田植え、草取りは残念ながら悪天候で実施できず）、クッキング、観劇会、こども園・保育園交流会、お話し会、七夕・十五夜・七草など季節を感じる活動などもそのねらいと共に年間計画に位置付けております。日常の保育活動でもこどもたちの生活体験や興味関心を広げるための活動を十分に行っております。今後も同じように取り組んで参ります。また、「イベント」という言葉には違和感があります。こども園では行事一つ一つの目的や保育活動のねらいを何度も検討し保育の充実を最重要に考えて実施しております。イベントを行うことがすなわち教育・保育ではないと考えています。

- (7) 雨の日のバス待ち時間にびしょぬれになります。各家庭に来てもらえるのが理想ですが、ご近所数名でも交代で、カーポート等がある宅でバス停にするのは厳しいですか？

吉野の交通事情を考慮し、安全運行のために幹線道路の離合ができる場所でバス停を設定しております。カーポートがある幹線道路沿いのお宅となりますと数が限定されてしまうことや、そのお宅の方にご迷惑になることが予測されますのでご要望の通りの対応は難しいと考えられます。現段階でも多くのバス停は私有地をご厚意で貸していただく等近隣の皆様の多大なご協力をいただいております。バスを待つ際には、お子様が騒がない・走らない、保護者同士の会話が大きくならないようにするほか、定時運行のためにバス到着時刻までにはカバン等の準備をお済ませいただきますようお願いいたします。

- (8) 同じクラスの友達の出欠状況の開示は厳しいでしょうか？(感染ルート把握のツールにもなるのかと思います)

ご家庭から通常の感染症の報告を頂いた場合には、速やかに園全体に共有いたしております。隣接の保育園での感染症情報の把握も行い、必要があればこども園保護者にも一斉連絡をしております。また、感染症に関わらず、体調不良により特定のクラスの欠席状況が多い場合には該当クラスにのみご連絡することもあります。感染症情報の共有が、感染ルートの把握ではなく初めに感染したご家庭の非難につながるようなことになってはいけませんので情報発信については特に注意をしております。

園児・保護者・職員にコロナウィルス感染者が発生した場合には行政の指導に従って情報公開を致します。コロナ差別で苦しい思いをする人がでないように細心の注意を払いながら対応いたします。

- (9) 先生の呼び方について(先生を〇〇さんと呼んだりしている)がいかがなものか。

昨年、こども園と保育園の常勤職員は全員、北九州にある「きのくにこども村」の視察研修に行

きました。体験学習を中心とした文科省の認可を受けた学校です。「まずはこどもを幸せにしよう。すべてはそのあとに続く」と説いたイギリスの教育学者 AS ニールの教えを引く学校です。こども主体の体験を中心とした教育の実践のヒントをつかむ、そのための大人のかかわり方を学ぶことを目標にした視察研修でした。きのくにこども村では、生徒であるこども達が教師の事を「おとな」と総称し、普段はニックネームで呼んでいました。「こどもとおとなは対等である。こどもは未熟な人としてではなく、1人の人として尊ばれる存在である」を掲げているこの学校では、こどもも臆することなく意見を交わしあたたかで和やかな雰囲気でした。

私達こども園の職員も、人権の観点からも、教育者としての視点からも、こども一人ひとり、職員同士を尊重し、対等の関係でありたいと願っています。そのために今年度から職員同士を「先生」や「園長」と呼ぶことは徐々に辞め「名字または名前+さん」と呼びあっております。保護者の皆様がもし私たち職員の呼び方に迷われることがありましたら「〇〇さん」と呼んでくださっても「〇〇先生」でもどちらでも構いません。初めは違和感があるかもしれませんが、親しみを込めて「さん」で呼んでくださると嬉しいです。

④参考図書

職員研修やレポート課題などで使用している書籍の一部です。新しい保育内容や園の方針などへのさらなる理解を深めるために保護者の皆様もご一読ください。園の書籍も貸出いたします。

「子どもへのまなざし」佐々木正美（著）

「保育者の関りと実践～教育と福祉の専門職として」高山静子（著）

「子ども主体の共同的な学びが生まれる保育」大豆生田啓友（著）

「やわらかい自我のつぼみ 3歳になるまでの発達と「1歳半の節」」白石正久（著）

「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領ハンドブック」無藤隆（著）

「10の姿プラス5 実践解説書」無藤隆（著）

「幼児教育の経済学」ジェームズ・J・ヘックマン（著）

「世界基準の幼稚園 6歳までにリーダーシップは磨かれる」橋井健司（著）

「究極の子育て 自己肯定感 x 非認知能力」おおたとしまさ（著/監修）